



慶讃法要で稚児行列参加者を募集

御影堂 平成大修復を終え

各種法要を勤修



発行 和歌山教区基幹運動推進委員会
編集 教区報編集委員会
和歌山市鷺森1番地
鷺森別院内
電話 和歌山(073)422-4677
FAX 和歌山(073)428-2450
発行人 杉本 正信

一九九八(平成十)年十月から十年の間修復工事を行ってきた御影堂がこのほどその工事を完了した。また、工事の完了を受け、各法要が勤修されることとなり、四月一日には親鸞聖人の御真影(木像)を総御堂から完成した御影堂に移す「御動座法要」が執り行われ、翌二日には「大修復完成奉告法要」が営まれる。

また、五月二十・二十一日の降誕会の後、二十二日から二十六日までの五日間、「大修復完成慶讃法要」が修行される。この法要に花を添える稚児行列も行われることになり、一日一回の

計五回実施される。毎回百人の定員で、小学校四年生以下の本願寺派寺族・門信徒の子弟、園児を対象に、参加費は一人につき一万円以上(衣装着付代・法要懇志を含む)で募集を行っている。いよいよ二年後に迫る七百五十回大遠忌法要に向け気運の高まりが本格化し始めた。

御動座法要
四月一日(水)
午前十時から
御動座勤行(総御堂)
午後二時三十分から
御動座法要(御影堂)
本願寺御影堂
平成大修復完成奉告法要
四月二日(木) 午後二時から
本願寺御影堂
平成大修復完成慶讃法要
五月二十二日(金) から
二十六日(火) まで
毎座午前十時三十分から
※午前九時四十五分より
稚児行列

宗会議員が決まる

僧侶は荻野さん(初)
門徒は内芝さん(3)

十月二十九日の宗会解散に伴う、総選挙が実施され、僧侶議員が十二月七日、門徒議員が十二月十日に投票が行われた。投票の結果、僧侶議員に荻野昭裕さん(海南組浄国寺住職)が、また門徒議員には内芝善明さん(日高組円明寺門徒)が当選を果たした。



内芝 善明さん

荻野 昭裕さん

舞台「法然と親鸞に」
教区から一、〇一六人が観劇

親鸞聖人七百五十回大遠忌を記念した劇団前進座による特別公演「法然と親鸞」が二月七日から三月八日まで大阪の国立文楽劇場で上演された。
当教区にも二月九日、二月十四日、二月二十四日の三日間が奨励日として割当てられた。期間中にはバスなどを利用し、各組より千十六人が観劇した。

親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち
受け法要二〇一〇年(平成二十二)
年三月四日大阪城ホールで開催

宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌の気運を盛りあげ、新たな門信徒の誕生と寺院や組活動に従来ご縁のなかった方々の参画をめざし、全国主要八都市でお待ち受け法要が勤修されることとなっている。近畿では大阪市に於いて開催され、現在大阪教区を中心に近畿各教区の教務所長や役職者が実行委員を務め、協議が重ねられている。今までには、二〇一〇(平成二十二年)年三月四日に大阪城ホールを会場に九千人規模の法要行事を開催することが決まっている。

各団体だより

寺族婦人会連盟

●二年に一度の研修旅行が六月二十三日から二十五日にかけて実施され四十人が参加した。今回は東京築地別院をはじめ、茨城、栃木など、関東にある親鸞聖人ご旧跡寺院を訪ね研鑽を深めた。



●十月二十二日に近畿ブロック寺族婦人会連盟研修会が滋賀、近江八幡市男女参画センターで開催された。

内藤知康勸学の記念講演と桂福

楽さんによるお説教落語「他力本願」が演じられ、教区からはバスで三十人が参加した。

●昨年より始まった連続研修会(計四回)の第三回目と第四回目を一月二十六日と三月四日に開催した。講師は玉木興慈龍谷大学准教授で、お聖教を通し親鸞聖人の信心を中心に講義された。毎回三十人ほどの参加者らは熱心に研鑽を重ねた。

仏教壮年会連盟

●十一月二日、第十九回全国仏教壮年兵庫大会が「現生正定聚いままさに 仏の智慧を得たなま」をテーマに開催。今大会は近畿ブロックが担当となり、兵庫教区を中心に大会準備が進められた。大会会場となった神戸のワールド記念ホールには全国から四千四百五人の仏教会員が集い、教区からもバス三台、九十五人が参加した。

●また、三月一日には結成三十周年記念大会を実施。鷲森別院を会場に三百人が参加し、三十周年を祝った。今年度より全国仏教壮年会が今までの会議体から連盟化へと移行され、新たなスタートを切ったが、教区内でも単体会登録等諸問題を抱えるものの、今大会を機に基幹運動の中核を担う壮年層の更なる飛躍が期待される。



仏教婦人会連盟

●九月二十八日から二十九日にかけて基幹運動研修旅行を開催。会員三十人が参加した。一泊二日の日程で鎮西別院参拝と童謡詩人で有名な金子みすゞさんを生んだ山口県長門市仙崎を訪ね、みすゞさんの詩興を

育てた寺院や町並みを散策した。

●伊那組仏教婦人会連盟が、十月三十一日に同組浄願寺を会場に結成三十周年記念大会を開催した。昭和五十二(一九七七)年に創立総会を開催し、歩みをはじめ現在会員が六百人。仏教婦人として様々な活動に取り組んでいる。式典では歴代委員長に記念品が贈呈された。

続いて藤範順誠前組長より記念講話があり、これまでの活動を通して様々なエピソードなどを交えながら、積みあげてきた歴史を振り返った。また同組では過疎等の現実直面する問題も多いが、伝統を受け継ぎ今後の活躍に期待を寄せた。その後、谷口溪石師による音楽法話が行われ盛会裡の内に大会を終えた。



ビハラー和歌山

●十二月十九日に昨年四月一日より開所した「ビハラー本願寺」の施設見学会を実施した。ビハラー会員や関係者四十人が参加。まず、施設長より開設された施設について説明を受け、実際に施設で奉職しているビハラー僧の方より実践活動の現状と社会に果たすビハラー活動の重要性のお話を伺った。

門徒総代会

●六月二十七日に三十三人の参加のもと親鸞聖人の御旧跡を訪ねる第三回参拝研修旅行を実施し、本願寺と青蓮院を訪れた。今回は参拝だけではなく、親鸞聖人の歩みについてより学びを深めようと本願寺に於いて研修を受けた。教学伝道センター常任研究員の葛野洋明師より聖人のご誕生から承元の法難に遭われるまでの話を通し、念仏者のたしなみについて研鑽した。

●一月十一日に第二回別院剪定奉仕が実施され各組より二十九人が参加した。

参加した総代には、本職の方や剪定経験者も多く、持ち場を確認すると持参した剪定道具を手に段取り

よく作業が行われた。心配されていた天候も影響せず予定通り無事奉仕活動を終えた。終了後は書院で弁当と温かい豚汁が用意され、参加者らは冷えきった体を温めた。

●二月七日に御坊組に於いて今年度のモデル事業が実施された。

会場となった日高別院には、御坊組内の門徒総代をはじめ各組門徒総代会の役員など九十人が参加した。「みんなに親しまれるお寺をめざして」をテーマに御坊組内で活性化に取り組む寺院より事例の発表があり、それを受け参加者全員で活発な話し合いが持たれた。また、スライドによる御坊組二十七ヶ寺の紹介も行われ好評を博した。



少年連盟

●毎年恒例の児童念仏奉仕団が七月二十三日・二十四日に開催された。六十九人の児童と引率・スタッフ二十三人の総勢九十二人、大型バス二台で参加した。参加した子どもたちは清掃奉仕や法話の聴聞をはじめ、本願寺探偵と題されたウォークラリーなどを楽しみ、たくさんの方たちと一夏の思い出をつくった。



●十二月十三日、鷺森別院において三百六十一人(児童二百二十七人・引率者百三十四人)が参加し「子どもの集い」キッズサンガ」が盛大に開催された。

今回は親鸞聖人七百五十回大遠忌宗門長期振興計画の重点項目の実践として全寺院での開催を目標に進められている『子ども

ものつどい」キッズサンガ」その取り組みの一環として、キッズサンガをすすめる会と教区少年連盟の共催のもと、毎年開催している子ども報恩講に趣向を凝らし、教区キッズサンガとして開催された。

当日は仏青、寺青の会員やスカウトの団員、また総代や仏婦の役員など総勢七十九人のスタッフを加勢し、昼食のカレー、ヨーヨー釣りやもちつき、竹とんぼ・紙飛行機・腕輪念珠作りなど盛りだくさんな内容に子どもたちは歓声をあげ、お寺での楽しい一日を過ごした。

新門様六月二十九日に和歌山教区を巡回

昨年の十一月六日の山科別院より始まった新門様の教区巡回並びに直属寺院巡拝が、このたび和歌山教区並びに鷺森別院に於いても六月二十九日に行われることになった。

このご巡回・ご巡拝は、親鸞聖人七百五十回大遠忌のお待ち受け機運の高揚とご法要の円成を期して、次代の法灯を継承される新門様に教区のご巡回並び

に直属寺院をご巡拝頂き、全国の僧侶・寺族・門信徒との交流を通して、さらなる宗門の諸活動の推進を期する機縁として、全教区・直属寺院で実施される。このご巡回に際し、新門様御導師による帰敬式が執り行われる。

日時 六月二十九日(月) 午後十二時四十分より
定員 先着二〇〇名
お問い合わせは、教務所まで。

なお、教区内のもう一つの直属寺院の日高別院については、現在書院・庫裏の再建工事を行っているため、完成後の十月七日に実施されることが決まっている。

得度 (平成二十年七月)

- | | | |
|-------|-------|-----|
| 雑賀 頭 | 有田南組 | 善照寺 |
| 中山 孝昭 | 和歌山北組 | 光源寺 |
| 蓮下 昭生 | 海南組 | 西光寺 |
| 岡本 典子 | 有田北組 | 蓮光寺 |
| 小野 修司 | 和歌山組 | 善称寺 |
| 佐々木恵信 | 紀南組 | 長徳寺 |
| 岩橋 芳隆 | 紀南組 | 金徳寺 |
| 宮本 欣勇 | 和歌山東組 | 蓮光寺 |
| 中田 三恵 | 伊那組 | 教善寺 |
| 森澤 忠和 | 和歌山組 | 西念寺 |
| 平岡 弘乘 | 御坊組 | 西円寺 |

逝去

(平成二十年七月)

- | | | |
|------------|--------------|-----|
| 高塚翔大朗 | 和歌山北組 | 改定寺 |
| 湯川 彩 | 御坊組 | 源行寺 |
| 津村 秀城 | 加茂組 | 西福寺 |
| 前任職 | 平成二十年七月八日 | |
| 石田 尚 | 有田南組 | 極楽寺 |
| 前坊守 | 平成二十年七月十八日 | |
| 井本タツエ | 加茂組 | 安養寺 |
| 坊 守 | 平成二十年八月十九日 | |
| 板原 巖 | 有田南組 | 円光寺 |
| 住 職 | 平成二十年八月二十五日 | |
| 宇多 實誠 | 伊那組 | 光明寺 |
| 衆 徒 | 平成二十年九月十五日 | |
| 栗本 唯眞 | 和歌山西組 | 長徳寺 |
| 衆 徒 | 平成二十年十一月三日 | |
| 伊藤 幸子 | 海草組 | 明光寺 |
| 平成二十年十一月三日 | | |
| 澤崎 恵夫 | 海南組 | 光明寺 |
| 住 職 | 平成二十年十一月六日 | |
| 濱口 恵俊 | 有田南組 | 安楽寺 |
| 衆 徒 | 平成二十年十二月十日 | |
| 中牟田貞夫 | 和歌山東組 | 聞光寺 |
| 住 職 | 平成二十一年一月二日 | |
| 中澤 宣誠 | 伊那組 | 徳円寺 |
| 前任職 | 平成二十一年一月二十八日 | |

ご生前のご活躍・ご尽力に感謝申し上げます。あげ、謹んで敬弔の意を表します。